

Matsuyama Red Cross Hospital

地域医療連携室報

2021.6

No. **90**

基本理念

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

基本方針

- 1 最適で質の高い医療を提供し、患者に優しい病院を目指します。
- 2 多職種によるチーム医療を実践し、安全・安心な医療を提供します。
- 3 地域の医療機関、保健・介護・福祉と連携を図り、急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害医療、国際救護活動の充実を図り、赤十字事業を推進します。
- 5 将来を担う人材の確保と育成に努めます。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。
- 7 健全経営の維持に努めます。

診療科紹介 …… 消化管内科 (胃腸センター)

消化管内科部長 蔵原 晃一

日頃より地域医療連携施設の先生方には、患者さんのご紹介、診療情報の提供など大変お世話になり感謝いたしております。新病院南棟オープンに伴う標榜診療科名の変更を含め、当科の診療体制をご紹介します。

当科の沿革：標榜科名称の変遷

当科は昭和45年(1970年)に内科の一部門として新設された「消化器科」に由来し、長年にわたり「消化器科(胃腸センター)」を標榜科名としてきました。その後、平成16年(2004年)の肝胆膵センターの発足に伴い、平成23年(2011年)より「消化器内科(胃腸センター)」を標榜してきましたが、一方で、専門領域が分かりにくいのご指摘もあり、南棟オープンを機に、令和3年(2021年)4月より「消化管内科(胃腸センター)」と改称いたしました。ただし、表に示しますように、論文・学会発表名、英文表記はそれぞれ「胃腸センター」「Division of gastroenterology」と変更はありません。

診療体制

当科は現在8名の常勤医師が所属しています。消化管内視鏡検査処置件数は年間12,000件を超え、中四国地方で最大規模の専門施設として、消化器関連4学会(消化器病学会、消化器内視鏡学会、消化管学会、カプセル内視鏡学会)の指導施設に認定されています。胃癌・大腸癌の早期診断・内視鏡的切除、胃酸関連疾患の診療と炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎など)の診療を3本柱とし、ピロリ菌専門外来と炎症性腸疾患外来(月水金)を開設するなど、各分野に専門の医師を配置し最先端の医療を実践するよう努めています。地域に先駆けてカプセル

大腸内視鏡を導入する一方、消化管出血などの救急診療や専門的な小腸内視鏡診療に対応するなど、初期診療から専門的治療まで消化管に関するあらゆるニーズに応えられる体制を心がけています。

特に内視鏡診療について

この度の南棟オープンに伴い内視鏡室も南棟に移転しスペースが拡充されましたが、同時に内視鏡機器を一新し、オリンパス、フジノン両社製の最新鋭機種に全面的に入れ替えました。AI診断機能、TXI/RDIなどの新しい特殊光高解像度観察、次世代型治療内視鏡スコープなどが導入され、診断から治療まで最新鋭機器による高度で先進的な光学診療が可能となりました。ご期待ください。

おわりに

当科では、所属医師とスタッフ一同が協力して、個々の症例に最新かつ良質な診療を提供したいと考えています。今後とも病診連携を通じた、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



消化管内科(胃腸センター)への改称について

	旧 称	新 名 称
標榜科名	消化器内科 (胃腸センター)	消化管内科 (胃腸センター)
英文表記	Division of gastroenterology	Division of gastroenterology
論文・学会発表名	胃腸センター	胃腸センター
英文表記	Division of gastroenterology	Division of gastroenterology

新任副院長紹介

副院長(兼看護部長) 児島 二美子



地域医療連携機関の皆様には日頃から暖かいご指導ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

令和3年4月1日付をもちまして、副院長を拝命いたしました。当院におきまして新たな歴史を築くこの時期に、副院長職を務めさせていただくことの幸せと責任の重さを痛感しているところです。看護職の副院長は、前任の小椋史香副院長兼看護部長に続き2人目となります。看護職員の看護実践や管理による組織貢献に対する承認、さらなる看護の質向上に向けたエールと受けとめ、全力で職務に取り組む所存です。

新型コロナウイルス感染症パンデミックから1年以上経過しましたが、未だ収束の兆しが見えません。医療介護福祉の現場の皆様におかれましては、極めて緊迫した厳しい状況が続いていると推察致します。このような中において、連携機関の皆様とのカンファレンスや研修会、セミナーなどの開催も困難な状況にあります。顔の見える連携は叶いませんが、ここ

ろを通わせた連携に努め、地域医療支援病院としての役割を果たして参りたいと存じます。患者支援センターは、地域医療連携室・療養支援室・医療相談室に加え、新たに病床管理室を設置しました。新病院の病床は632床から585床に減床しましたが、重症集中治療部門(ICUCCU・HCU)は12床から20床に拡大しました。効率的に病床管理を実施し、急性期・専門的治療を必要とする方がスムーズに入院し、必要な検査・治療を受け、早期に住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援して参ります。

今後とも地域医療連携機関の皆様、在宅医療を支える皆様、地域住民の皆様の声を真摯に受けとめ、信頼され選ばれる病院を目指します。

今後とも、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

新任部長紹介

第三整形外科部長 大前 博路



この度、令和3年4月1日付で第三整形外科部長を拝命いたしました。肩関節外科を専門としています。平成10年に広島大学を卒業後、広島大学整形外科に入局し、同大学病院に半年間、広島県立身体障害者リハビリテーション病院に半年間、広島鉄道病院に2年間、松山市民病院に2年間、済生会呉病院に1年間勤務しました。広島大学大学院に入学し、再生医療に関する研究を行いながら、同大学病院に2年間勤務後に米国メイヨークリニックに1年半留学して腱の再生医療や生体力学的手法を用いた基礎研究を行いました。平成19年10月1日に当院に副部長として赴任後は、肩関節の関節鏡視下手術を積極的に行い、現在までに約2,000例の腱板修復、バンカート修復などを経験してきました。欧米では主流な手術であるリバーズ型人工肩関節全置換術が平成25年に認可されてからは人工関節を行うようにな

りました。再生医療を目指す医局に所属し、組織修復や再生に関する研究を行ってきた経験から、当初は全く逆の治療方法である人工関節置換術に抵抗感がありました。平成27年に日本肩関節学会とヨーロッパ肩肘学会の交換留学生に選ばれ、1か月半の研修中に人工関節の優れた術後成績に触れてからは、高齢者に対する人工関節を積極的に行っております。術後早期の除痛と機能回復が望める人工関節を、骨格の小さな日本人にうまく適合させるための工夫を常に考えています。患者さんの痛みの訴えをよく理解し、納得できる説明を十分に行い、きれいな手術を行って患者さんに満足してもらえるように努力していく所存です。先生方におかれましては、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第二呼吸器内科部長 牧野 英記



この度、令和3年4月1日付で、第二呼吸器内科部長を拝命いたしました。平成12年に高知大学を卒業後、徳島大学第三内科(呼吸器・膠原病内科)に入局し、大学病院、四万十市民病院(一般内科)、高知赤十字病院で研修を行った後、大学院で間質性肺炎の研究を行い、平成19年から松山赤十字病院で2年6か月勤務しました。その後亀田総合病院で、呼吸器感染症分野を中心に3年間、呼吸器疾患の診療と臨床研究に従事しました。平成25年から再び松山赤十字病院に副部長として赴任し、現在はICTのメンバーの一員として感染症診療/感染制御、COVID-19の診療にも携わっています。

愛媛県は呼吸器内科医の数が少なく、中予地区以外の医療圏からもご紹介頂くことが多く、あらゆる呼吸器疾患の診療にあたっています。呼吸器分野は、近年治療成績が格段に向上した呼吸器悪性腫瘍、日和見感染症・結核・肺真菌症などを含む呼吸器感染

症、抗線維化治療の時代が訪れた間質性肺疾患、病態に応じた薬剤選択ができるCOPD、生物製剤や気管支サーモプラスティなど新規治療が開発された喘息など幅広い疾患があり、集中治療を要する急性期から慢性期、さらには終末期まで患者さんと関わっています。また、気管支鏡検査の進歩は目覚ましいものがあります。

新たな取り組みとしては、自宅で閉じこもりがちな在宅酸素療法を受けている患者さんに対して「日赤HOTの会」を立ち上げ、年2回の患者会は好評でした。令和3年より局所麻酔下胸腔鏡検査を導入し、低侵襲かつ診断精度の高い医療を目指しています。

地域の先生方や患者さんに少しでもお役に立てるように努力したいと存じますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第二産婦人科部長 栗原 秀一



この度、令和3年4月1日付で第二産婦人科部長を拝命いたしました。平成13年に九州大学を卒業後に同大学の産科婦人科学教室に入局し研修をおこないました。第2病理学教室で主に婦人科腫瘍の研究・診療に従事した後に県立宮崎病院、福岡赤十字病院で修練をおこなってまいりました。

婦人科悪性腫瘍の分野では、子宮体癌におけるminimally invasive surgery や進行卵巣癌でのPARP阻害薬など、一般保険診療での治療に進歩がみられ、当院でも対応しています。また昨年より良性病変に対するロボット支援下子宮摘出術を開始し、良性子宮病変に対する手術において選択肢が広がっています。今後も安全で質の高い医療が提供できるように取り組んでまいります。

当院産婦人科は横山副院長を含め12名のメンバー(女性6名、男性6名)で構成されており、和気あいあいと熱心に診療に取り組んでいます。また、関連する診療科・部門は協力的であり、他科受診、カンファレンス、術中コンサルト等をおこないながら、ご紹介いただく患者様の診療にあたらせていただいています。

私は高校生までの時期を宇和島、松山で過ごしました。思い出深い土地でお仕事をさせていただけることとなり喜んでいきます。地域医療に貢献できるように、頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

第二血液内科部長 浦田 真吾



この度、令和3年4月1日付で細胞療法室室長、第二血液内科部長を拝命いたしました浦田真吾と申します。2004年に九州大学医学部を卒業後、九州大学病院、県立宮崎病院で初期研修医として新臨床研修医制度のもと幅広い分野の指導を頂きました。九州大学第一内科血液研究室に入局後、県立宮崎病院で内科レジデントとして1年間、様々な内科系疾患の診療を学ばせて頂きました。その後、九州大学大学院へ進学し、新規免疫不全マウスの作成やマクロファージの貪食作用に関する研究など造血幹細胞移植に関わるテーマの研究を行いました。2011年からは血液内科医として、九州大学病院で1年間、福岡東医療センターで3年間、原三信病院で4年間勤務させて頂き、主に血液悪性腫瘍に対する化学療法及び自家移植、同種移植を中心に経験を積ませて頂き、2019年3月から松山赤十字病院に赴任させて頂きました。

血液内科は難治性疾患の多い分野ですが、この15年間における治療の発展は目覚ましく、様々な新規薬剤に加えて、支持療法や移植方法の進歩、チーム医療の充実、無菌フロアなどハード面の進化により、患者さんの予後は確実に改善してきています。また二重特異性抗体 (BiTE) やキメラ抗原受容体発現T細胞 (CAR-T) 療法など、これまでにない機序の新しい治療も登場しています。当院でも2021年3月に14床のクリーンルームを備えた細胞治療室がオープンし、造血幹細胞移植を含め、これまで以上に質の高い治療を安全に行える環境が整いました。血液疾患診療における地域の基幹病院たるべく、チーム一丸となって日々研鑽に努めていく所存ですので、先生方におかれましては、より一層のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

患者支援センター 副所長

患者支援センター 副所長 吉岡 雄一



連携施設の皆様方には、日頃から当院の地域医療連携業務にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。この度、令和3年4月1日付をもって患者支援センター副所長を拝命致しましたのでご挨拶申し上げます。

新病院建設では、平成30年1月の北棟オープンに続き、令和3年3月15日に南棟がオープンしました。当院は、地域医療支援病院として機能するため適正な病床運用のマネジメント業務を行う病床管理室を新たに開設し、「地域医療連携室」、「療養支援室」、「医療相談室」、「病床管理室」の4部門からなる組織としての新たな組織・機能を強化する体制を整えました。

また、開放感のある相談カウンターやプライバシーに配慮した相談室を設置し、患者相談及び入退院支援体制の充実を図ることいたしました。

連携施設の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス拡大防止の対応に大変なご苦勞をされ

ていると思いますが、当院も第二種感染症指定医療機関としての役割を果たすため、スタッフ一丸となって対応しております。

そのような中で、毎年開催しておりました各種イベント、研修会等も止む無く中止となり、顔の見える連携が行えず、今後も開催の予測が立たない状況が続いておりますが、ハイブリッド型セミナー等を企画することとしております。

令和3年度についても、皆様と情報共有できる場を持つための各種企画を行うとともに地域医療連携室報等を通じ情報発信をしていきたいと思っております。

患者さんに寄り添い、良質で温もりのある医療の提供と地域支援病院としての役割を充実できるよう職員一丸となって取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

アンケート調査結果について

患者支援センター

	(%)	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
1. 医師満足度	R2	88.6	10.1	1.3	0.0	0.0
	R1	82.9	15.4	1.7	0.0	0.0
2. 患者満足度	R2	69.6	26.6	3.8	0.0	0.0
	R1	61.5	33.3	5.2	0.0	0.0
3. 連携室に対する満足度	R2	88.6	8.9	2.5	0.0	0.0
	R1	72.6	22.2	3.9	1.3	0.0

平素は、当院患者支援センターの事業運営にご支援、ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年1月に地域医療連携に関するアンケート調査をお願いし、158施設の先生方よりご回答をいただきましたのでご報告いたします。

1. 医師満足度

「満足」が前年度比で5.7ポイント増、「やや満足」が5.3ポイント減、「どちらでもない」が0.4ポイント減、「やや不満」「不満」が前年度と同じく0でした。

2. 患者満足度

「満足」が前年度比で8.1ポイント増、「やや満足」が6.7ポイント減、「どちらでもない」が1.4ポイント減となりました。

3. 連携室に対する満足度

「満足」が前年度比で16.0ポイント増、「やや満足」が13.3ポイント減となり、「どちらでもない」が1.4ポイント減、「やや不満」が1.3ポイント減、「不満」が前年度と同じく0でした。

今回の調査では、医師満足度、患者満足度、連携室に対する満足度で「満足」の割合が前年度に比べて増加し、「やや不満」「不満」が0でした。

この結果を踏まえ、なお一層身を引き締め、今後

も皆様へさらに満足していただけるよう努めて参りたいと思います。

4. 当院へ患者紹介した際、結果的に断られたことがありますか？

ある 2件 理由)・手術があるため対応できない。
・1件は未記入

5. 「松山赤十字病院地域医療連携ネットワークシステム」をご覧になって使ってみたいと思われましたか？

使ってみたい 29件 (36.7%)
いいえ 32件 (40.5%)
使っている 8件 (10.1%)
無回答 10件 (12.7%)

6. 講演会や研修会をWeb上で視聴(会議)することは可能ですか？

可能 45件 (57.0%)
不可能 11件 (13.9%)
今後対応予定 4件 (5.1%)
無回答 19件 (24.1%)

7. 医療連携に関するご意見・ご要望等(一部抜粋)

①予約のFAXを送ってから返事に半日、1日程時間がかかるので患者への説明に困っている。

回答……予約のFAXを受け、返信までの科別の
実時間を院内で調査し、時間のかかっ
ている科に対しては、改善を図ります。

②勉強会をWeb上で実施していただけたらあり
がたいです。

回答……今後、勉強会を現地参加+Webのハイ
ブリッドで行いますので、ご都合の良
い方法でご参加下さい。

③「松山赤十字病院地域医療連携ネットワークシ
ステム」について、VPN接続が面倒のためらっ
ております。

回答……当院職員が設定作業に伺い、医療連携
ネットワーク（EMA ネット）のVPN
を利用することで、インターネットか
ら遮断された安全な接続を行いますの
で、申し込みいただければと思います。

皆様からいただきましたご意見・ご要望を真摯に
受け止め、患者支援センター及び院内の業務内容
を見直し、できる限り皆様のニーズに対応できるよ
うに取り組んでいきたいと思っております。なお、今
回の回答率が14.7%と低い状態です。よりよい地
域連携のための参考となりますので、なるべく多数
の施設にご回答いただきますようよろしくお願いし
ます。

最後になりましたが、大変お忙しい中、アンケー
トにご協力いただき本当にありがとうございました。

今後とも、当院患者支援センターをよろしくお願
いいたします。

松山赤十字病院登録医制度について

現在、当院の登録施設は396施設、登録医は552名です。

今後も随時、受付けておりますので当院「患者支援センター」までお問い合わせください。TEL (089)926-9516

FAXによる受診予約について

患者支援センターでは、従来より地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者さんの受診予約を承っております。当日、患者さんは南棟（新棟）総合受付内の「1 紹介受付」にお越しいただくことで初診受付の手続きが不要となり、待ち時間の短縮になります。是非、FAXによる受診予約をご利用いただきますようお願い申し上げます。

FAX (089)926-9547 (24時間受付)

TEL (089)926-9527 (平日8:30~17:10)

※17:00以降にいただいたFAXにつきましては、翌日のお返事とさせていただきます。

バックナンバーにつきましては当院ホームページからご覧いただけます。

■ 発行責任者 / 副院長（患者支援センター所長） 藤崎 智明

■ 編 集 / 松山赤十字病院・患者支援センター 〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL 089-926-9527 FAX 089-926-9547 <http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>